

祝！「伏石駅」開業

ことでん琴平線の三条駅と太田駅の間に整備していた新駅「伏石駅」が11月28日（土）に開業します。平成18年に「空港通り駅」が開業して以来の高松市内における鉄道新駅の誕生です。併せて三条～太田駅間の複線化もなされ、来春には、バスターミナルとなる駅前広場を整備し、グランドオープンを予定しています。

高松市内には、JRが2線、ことでんが3線と、鉄道路線が5本も走っています。それが本市の強みです。それを活かして、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりの考えの下、鉄道路線を基軸として、バス路線をフィーダー（支線）とする持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けて取り組んでいます。公共交通が衰退すると交通弱者の急増をはじめ、環境問題の悪化、中心市街地の空洞化など、地域社会そのものが大きく衰退しかねません。そのため、平成25年には「高松市公共交通利用促進条例」を制定し、電車とバスの乗継割引制度を拡充するとともに、70歳以上の市民は運賃が半額となるICカード「ゴールドIruCa」の発行を支援して、より公共交通を利用しやすいように努めてまいりました。お陰様で近年、本市においては、鉄道、バスともに利用者は増加し、公共交通利用率も2ポイントほど上昇しています。

そこに新型コロナウイルス感染症の拡大という思いもよらない事態が発生しました。外出の自粛や学校の臨時休業、事業所の営業休止等により、公共交通の利用は大幅に落ち込み、その影響は極めて深刻なものとなりました。公共交通機関は感染リスクの高い空間と認識されたことも影響したようです。その後、安全に関する科学的な知見が示され、事業者の感染拡大防止対策が講じられたこともあり、相当程度回復傾向は見られますが、以前の状態に戻るかどうかは不明です。

都市の健康にとって公共交通の充実は必要不可欠であると思っています。国道11号との結節点で、高松自動車道の中央インターからも近い「伏石駅」の開業が地域にもたらす影響は大きく、これを機に、ウイズコロナの時代における本市の交通のあり方について、再度検証して参りたいと存じます。



ことでん琴平線 伏石駅